

河口堰閉鎖25年・生物多様性COP10から10年  
開門調査の実現を!

# よみがえれ 長良川



Free  
the  
Nagara  
River

# よみがえれ長良川

河口堰ゲート閉鎖25年、開門調査の実現を！

「室の川やった長良川は、河口堰ができて流れが止まり、川底には砂とゴミがたまり、魚の棲まんおぜえ川になってまった。どうか、堰を開けて長良川を助けたってください」親子三代にわたり長良川下流でサツキマス漁を営んでこられた大橋亮一さんが、昨年亡くなるまで訴え続けられた言葉です。

長良川の河口をふさぐ河口堰のゲートが閉鎖されて25年。海とのつながりを断たれ、長良川の環境は大きく変わってしまいました。ヤマトシジミの姿は消え、日本有数の漁場は失われました。堰上流側は水位を上げたままの人工湖となり、様々な生きものが棲む豊かなヨシ原は90%消滅し、伊勢湾の環境にも大きな影響を与えています。

河口堰はアユ、サツキマス、ウナギ、モクズガニ……など海と川を行き来する多くの生きものの障害となっています。長良川の象徴でもあるアユの仔魚は海に下れず、漁協が中流の岐阜市で捕えた落ちアユの卵に人工授精し、1億を超える受精卵を河口へ運搬、人工水路で孵化放流を行っています。人の手を借りてしか生きられない状況のもと、岐阜市は長良川の天然遡上アユをレッドリストで準絶滅危惧種に選定しました。

アユの漁獲量が河口堰建設以降激減する一方で2015年、「清流長良川の鮎」が国連食糧農業機関により世界農業遺産に認定されました。岐阜県は、これを契機にアユのブランド化、漁獲量日本一をめざし大量放流に拍車をかけています。アユだけでなく魚類全体の生態系の攪乱に危惧の声が広がっています。

長良川の環境・生態系の回復のために今一番必要なことは、汽水域を復活し流れを取り戻すことです。2010年名古屋市で開催された生物多様性条約締約国会議COP10では、「自然と共生する世界」の実現をめざす愛知目標が採択されました。節水意識の普及により水需要は減少しており、今後の人口減少でさらにこの傾向は明らかになります。2011年、最大の利水者である愛知県は、長良川河口堰を検証する委員会を設置し、河口堰の開門調査を提案しました。この提案は開門による「塩害の危惧」にも十分配慮したもので、国・事業者・関係自治体の協議が求められています。

愛知目標10年の節目となる今年こそ、河口堰開門に向けた確実な第一歩の年としましょう。

一昨年、熊本県球磨川の荒瀬ダムで、日本初の大規模ダム撤去が地元住民と時間をかけ協議をしながら完了しました。その結果、川は流れを取り戻し、河口部の川も海も目に見えて環境回復しました。

昨年、韓国釜山市のナクトンガン（洛東江）河口堰の試験開門が始まりました。1987年運用開始以来、堰の開放をめざす市民は釜山市を後押しし新政権とも連携し、2025年の河口堰全面開放めざして前進しています。また「4大河川事業」で建設されたダムのゲート開放や撤去も市民参加で進んでいます。

デルタの国オランダでも、河口堰を開放して汽水域を回復するたくさんの実績を積み重ねています。ヨーロッパではすでに4千のダムが撤去され、川の流れを取り戻す取り組みが進んでいると言われています。

河口堰開門は、世界の流れです。



長良川の環境・生態系を壊す公共事業

## 2 (徳山ダム導水路) 木曾川水系連絡導水路計画

徳山ダムの水を毎秒20m<sup>3</sup>、揖斐川上流から木曾川まで約43kmの地下トンネルで運ぶ計画です。総事業費890億円。その水の一部を、河川環境改善と利水(名古屋市工業用水)の名目で、長良川の鶴飼場のすぐ上流で放流する計画ですが、渇水時に5℃も冷たいダムの水を流すことで生態系を壊し、鶴飼にもダメージを与えることは明らかです。2009年から「凍結・検証」中ですが、毎年2億円超のお金が使われ続けています。

愛知県・名古屋市の水需要は減り続けています。徳山ダムの水は全く必要ありませんが、国・事業者は新たに「リスク管理」論を持ち出し、国土強朝化の掛け声に乗って事業の「継続」決定をする構えです。

## 1 ながらがわかこうせき 長良川河口堰



総延長166kmの本流にダムがない長良川に、河口から約5.4km上流(三重県桑名市)に建設費1,500億円で作られた全長661mの可動堰。1995年に本格運用を開始し、毎秒22.5m<sup>3</sup>の水を利用する予定でしたが、水需要が減る中で最大の目的であった工業用水は一滴も使われていません。現在、愛知県知多地域と三重県中勢地域の一部に上水道として使われていますが、計画していた水量のわずか16%です(これも以前の水源でまかなえます)。建設費のローン返済は終わりましたが、次世代にわたり要らない河口堰に毎年約10億円もの維持管理費を負担させるのは問題です。

まずは、環境改善をめざすゲートの開放。そしてさらに大地震・津波・高潮に備えて撤去を考えたければならないでしょう。

## 3 うちがたに 内ヶ谷ダム建設

長良川の支流である亀尾島川の源流部に建設が進む高さ84.2mのコンクリートダム。

当初事業費約260億円の計画でしたが、3度にわたる増額で昨年580億円としました。完成時期も2025年に延期されました。いったいどれだけ税金と時間を費やすのでしょうか。治水目的と言われていますが、大洪水が頻発する今日、県民は身近な堤防の補強などを一日も早く望んでいるのにダム建設のおかげでちっとも予算が回ってきません。

岐阜県自身の発表でもこの事業の「便益/費用」は、1.05で、限りなく無意味なものです。無駄な公共事業で自然豊かな森林と溪流を奪ってはなりません。

Free the Nagara River

生物画：

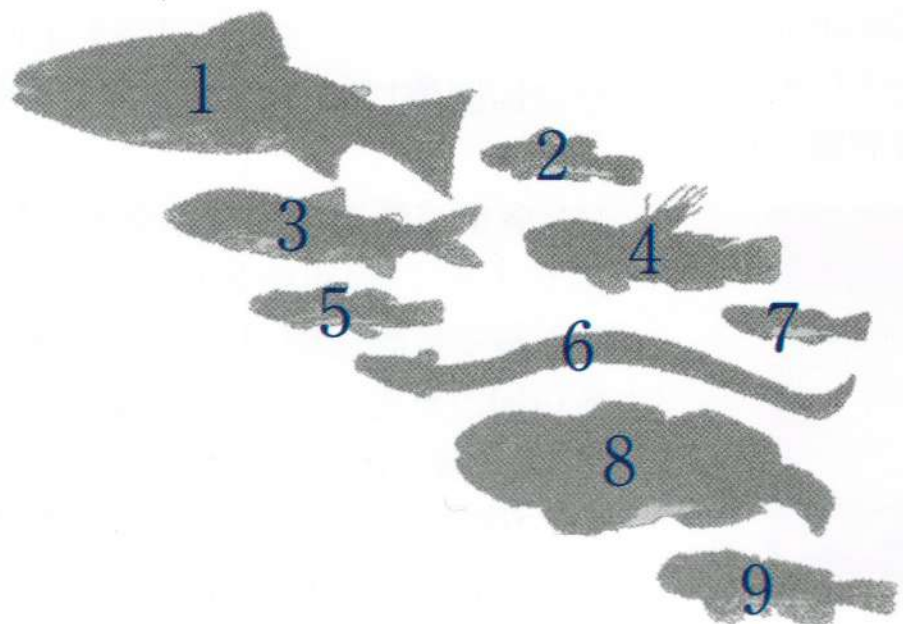
## 後藤宮子「長良川中流の回遊魚」

元NPO法人ギンブナの会理事長／長良川中流魚類研究家

1925年(大正14年)岐阜県本巣郡根尾村生まれ。高校教師のかたわら研修員として京都大学に通う。関市下白金の長良川の分流・今川で1967年から1997年まで30年間にわたり、夫(後藤正さん)と共に定置漁法「登り落ち漁」による魚類調査を続けた。捕獲した魚は47種, 約126万匹。そのうち回遊魚は9種類であった。

回遊魚とは一生の中で川と海をまたいで生活し、子孫を残す魚のことです。川と海を自由に行き来できないと、回遊魚は成長することも子孫を残すこともできません。

1. アマゴ(サツキマス)
2. シマヨシノボリ
3. アユ
4. ヌマチチブ
5. オオヨシノボリ
6. ウナギ
7. ウキゴリ
8. アユカケ
9. カジカ



# よみがえれ長良川実行委員会

<http://dousui.org/> 事務局:長良川市民学習会

共同代表:

粕谷 志郎(長良川市民学習会代表)

亀井 浩次(NPO法人 藤前干潟を守る会理事長)

〈参加団体〉

アジアの浅瀬と干潟を守る会

伊勢・三河湾流域ネットワーク

板取川自然探索・山童

公益財団法人 東海水産科学協会 海の博物館

河口堰に反対し、長良川を守る県民の会

NPO法人 ギンブナの会

国連生物多様性の10年市民ネットワーク

しじみプロジェクト桑名

「自然の権利」基金

設楽ダムの建設中止を求める会

水源開発問題全国連絡会

瀬戸自然の会

Sonne Garten (ゾネガルテン)

中部の環境を考える会

東海民衆センター

導水路はいらない!愛知の会

徳山ダム建設中止を求める会

長良川河口堰建設に反対する会・岐阜

長良川河口堰の水を考える住民の会

長良川市民学習会

長良川水系・水を守る会

名古屋水道労働組合

名古屋市水辺研究会

NPO法人 藤前干潟を守る会

NPO法人 みたけ・500万人の木曾川水トラスト

山崎川グリーンマップ

四日市ウミガメ保存会

ラムサール・ネットワーク日本

リバーポリシーネットワーク

(五十音順)

お問い合わせ:

Tel: 090-1284-1298 (武藤)

Email: mutohitoshi@yahoo.co.jp

●活動への支援カンパをお願いします。

〈振込先〉 ゆうちょ銀行(振替口座) 00840-3-158403

口座名称:長良川市民学習会

# よみがえれ長良川

<http://dousui.org/>



長良川と伊勢湾を行き来し成長する回遊魚が  
自由に行き来できる豊かな川を取り戻したい、  
という願いを込めています。

長良川・伊勢湾の環境を改善するために  
「よみがえれ長良川」の活動を、ぜひ広めてください。  
詳しくは、事務局（長良川市民学習会）の  
ホームページをご覧ください。